

世界遺産委員会決議への対応方針（案）（観光管理）

要請事項

- a) Capping or reducing levels of tourist visitation from current levels, especially on Iriomote Island, until a critical evaluation of tourism carrying capacity and impacts can be conducted and integrated into a revised tourism management plan,
- a) 特に西表島において、観光の収容能力とその影響に関する厳しい評価が実施され、改定観光管理計画に統合されるまでは、観光客の訪問レベルを現在のレベルに制限する、または現在のレベルより減少させること。

進め方（案）

- ◎観光管理に関する要請事項においては、「特に西表島」となっており、西表を中心として取組を進める。
- ◎他の3島においては「観光マスタープラン」に基づき、引き続き観光管理の取組を進める。
- ◎世界遺産委員会へ報告するレポートには4島全ての取組を含める。

■西表島 「持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画」の改定

- ◎西表島部会の下部に作業部会（関係行政機関＋地元関係団体・事業者＋専門家）を設置し、西表島来訪者管理基本計画の改定に向けた検討を進め、2022年度末に改定版を取りまとめる。
- ◎世界遺産委員会に提出するレポートは来訪者管理基本計画改定の中間報告のとりまとめ結果に基づき、西表島部会事務局が作成。
- ◎ロードマップ(2021-2022)
- ・2021年度
 - 8月：西表島部会で作業部会設置及び計画改定の方針・スケジュールを承認
 - 10月：第1回作業部会+専門家ヒアリング
 - 1月：第2回作業部会
 - 2月：西表島部会で作業部会での検討状況を報告
科学委員会を開催し委員からの助言を得る
 - 3月：地域連絡会議に進捗報告
 - ・2022年度
 - 5月：第3回作業部会（来訪者管理基本計画改定の中間報告の検討）
 - 6月：西表島部会で来訪者管理計画改定の中間報告の承認
 - 7月：西表島部会事務局によるレポート案の作成・提出→沖縄県による4島とりまとめ
 - 9月：科学委員会を開催し委員からの助言を得る
 - 10月：地域連絡会議においてレポートの合意形成を図る
第4回作業部会

(12月1日：レポート提出)

1月：第5回作業部会（来訪者管理基本計画改定版の検討）

2月：西表部会での来訪者管理計画改定版の承認

◎作業部会メンバー

- ・コロナ禍における議論のしやすさを考慮して、全体の人数は絞り、沖縄県下の方を中心に選定
- ・地元関係団体は、西表島の観光、交通、自然環境保全に関係する島内外の主要な団体を選定
- ・専門家は、西表島エコツーリズム推進協議会の委員から、観光管理や、特に観光利用による影響が想定される分類群（ヤマネコ、植物）の専門家であることを考慮して花井氏、横田氏、中西氏の3名を選定
- ・加えて、沖縄県の観光に詳しく観光管理の専門家である越智氏、世界遺産委員会に提出する4地域全体のレポート作成も考慮して、ガバナンス論の専門家である田中氏を選定

区分	団体名・役職・氏名		属性・選定理由
行政機関	環境省沖縄奄美自然環境事務所		関係行政機関
	林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署		
	林野庁九州森林管理局西表森林生態系保全センター		
	沖縄県自然保護課世界自然遺産推進室		
	沖縄県観光振興課		
	竹富町世界遺産推進室		
地元関係団体・事業者	竹富町観光協会	大島佐喜子	地元観光関連主要団体（一般観光）
	西表島エコツーリズム協会	笠井雅夫	地元観光関連主要団体（体験型観光）
	西表島交通グループ	玉盛雅治	島内バス・レンタカー・動力船事業者
	アイランド・エコシステム・リサーチ	河野裕美	自然環境の調査・研究を行う島内の団体
	やまねこパトロール	高山雄介	島内のイリオモテヤマネコの保護団体
	八重山観光フェリー	黒島一博	石垣-西表航路の船会社3社の代表として
	八重山ビジターズビューロー	金城徹	西表島への送客側の立場の団体として
専門家	元 NPO 法人沖縄県エコツーリズム推進協議会 会長	花井正光	西表島エコツーリズム推進協議会委員、エコツーリズムの専門家
	琉球大学 名誉教授	横田昌嗣	西表島エコツーリズム推進協議会委員 植物の専門家
	北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員	中西希	西表島エコツーリズム推進協議会委員 哺乳類（ヤマネコ）の専門家
	琉球大学国際地域創造学部 教授	越智正樹	観光社会学の専門家 沖縄県の観光に精通
	九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 准教授	田中俊徳	元世界遺産センター研修員 環境政策・ガバナンス論の専門家

◎以下のメンバーにヒアリングを実施することにより幅広い情報を補完。

- ・敷田麻美氏（北陸先端科学技術大学院大学。知床のエコツーリズム戦略の策定に携わる）
- ・大手観光エージェント（西表島への送客を行う主な主体を適宜選定する）

- ・渡辺信氏、梶田忠氏、内貴章世氏（地元研究機関：琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設）
- ・内閣府沖縄総合事務局

■その他3地域 各地域における現行の「観光マスタープラン」に基づく取組状況の整理

◎各地域部会の事務局（関係行政機関）が各地域の「観光マスタープラン」に基づく取組状況を整理し、各地域部会に報告・確認を行ったうえで世界遺産委員会に提出するレポートを作成する。

◎ロードマップ(2021-2022)

・2021年度

8月：各部会で「観光マスタープラン」に基づく取組状況の整理方針を説明

2～3月：各地域部会で取組状況の整理の中間とりまとめを報告・確認

科学委員会を開催し委員からの助言を得る

・2022年度

5～6月：各地域部会でレポート案を報告・確認

7月：各地域部会事務局によるレポートの作成・提出 → 沖縄県による4島とりまとめ

9月：科学委員会を開催し委員からの助言を得る

10月：地域連絡会議においてレポートの合意形成を図る

(12月1日：レポート提出)